

学習指導要領の改定により、本年度から中学校に技術家庭科が全面的に実施された。

この教科では技術の基礎が教授されることになっているが、その教授法としてしばしば、自転車等の作業機械の分解・組立作業、本立て・椅子等の木工品の製作、チリトリ等の板金製品の製作が行なわれている。中学校の技術教育でこのような学習形態がとられている背景には、技術家庭科の前身である職業家庭科以来の啓発、経験主義^{II}いろいろな職業に関する基礎的な作業をやらせてみるという考え、あるいは生産教育に名を借りた勤労精神主義があるように思われる。

このような傾向は、教育内

容(教科書の検定)、教授法(六〇名前後の生徒を二分してそれぞれに違った作業を行なわせる平行回転学習)にわたる行政指導、施設・設備等の物質的条件の不備、教職員対策の欠除などとあいまって、技術教育の性格そのものを不明確なものとしている。

その意味では、生産技術教育(八日教組・日高組の教育研究会の一分科会の名称Vなどに名ごりをとどめている生産教育の考え方に ついても、再検討の必要にせまられているように思われる。

かかる状況のもとで、しばしばコトバとして語られて来た感のある「教授と生産労働を結合する」という原則は、現実にはどのような意味で有効なのであろうか。体制の問題・生産関係の問題を欠いて、この原則を論ずることに重大な危険がともなうことは否定できない。このような問題を、とくに中学校の技術教育、とりわけ技術家庭科という特定の教科における問題として検討することは、教科の役割を明らかにするうえでも今日極めて重要な意義をもっていると考えられる。

以上のような問題をめぐり、矢川徳光氏

(交渉中)の報告をもとにして討議をすすみたい。

二

技術教育に対しては、一方の極に、労働の蔑視とあいまって極端な技術教育の軽視(人文主義的教養の遍重、はやい話が、学校教育で数学や国語などの教育を否定する人はいないが、技術教育は不要だという人はかなりいる)と無関心がある。他方には、労働力の養成と人材開発(マンパワー・ポリシー)に関連して、体制側による倫理的側面を重視した技術教育の拡充強化と技術的能力の開発が提唱されていることがある。

このような状況のもとで、小・中・高校を通じて技術教育が当面している問題の一つは、技術教育における教育内容が科学的に検討されていない点にある。このことがとりわけ問題となっているのは、中学校の技術家庭科のばあいである。

民間教育運動全体をみわたしても、技術教育の内容を科学的に検討することは、やっとならば緒についたばかりであるように思われ

る。困難な状況のもとで、技術教育の内容を現代の子どもにふさわしいものとするしことは現代に生きるわれわれの課題といえるであろう。

現代自然科学の成果と生産技術の飛躍的な進歩の核心を取り入れる努力は、つねに、既成の教科をふくめた教育内容の歴史的・批判的な検討と結びつけて行なわれなければならないだろう。もちろん、このような教育内容の研究をすすめてゆく基準は科学に求められなければならない。

なおまた、以上のことと関連して「教育内容の現代化」ということについても検討しなければならぬ。

数学教育のように、「現代化」の内容がかなり厳密に規定されているばあいには、「教育内容の現代化」という命題はその限りで極めて有効なものと考えられる。しかし、この命題を他教科の領域にまで一般化することは、内容が明確にされていないだけに、かなりの疑問がある。

「がらくた教材を捨てる」とか「教育内容の科学化」あるいは「現代科学の成果を教育内

容に取り入れる」というような命題と、「教育内容の現代化」という命題との間にはずれがあるし、「教育内容を現代にふさわしいものにする」という意味ならば、われわれはもっと現代の意義を明確にする必要があるのではなからうか。少なくとも、われわれの生きている現代を、「技術革新」とか「科学・技術の進歩」の側面だけでとらえることには、重大な危険があるといわねばならないだろう。

以上のような問題を、報告（佐々木の予定）をもとにしながら討議したいと考える。

三

今年の全国大会では、理科教育の分科会が別に設置されるので、技術教育の分科会は以上述べたような問題に限定しながら討議をすすめることが可能ではないかと思う。しかし、それにもかかわらず、昨年までの経過が示しているように、この分科会では、技術教育をめぐる他の諸問題の検討を回避することはできないだろう。とくに、科学・技術の進歩にともなう労働過程の変ほうとそれの教育

への要請、体制側の労働力養成策を中心とした学校教育への要求と、その影響を直接的に受ける技術教育がおかれている物質的・人的条件とその改善等々の問題を、教育政策および諸教師集団の主体的な運動との関連のもとに検討することが必要となるだろう。

また、高等学校全員入学運動の進展、「合理化」にともなう転換教育や学力テスト反対闘争を通して著しく高くなってきた労働者階級の教育への関心等の問題が、青年に対する技術教育の問題として検討する必要にせまられている。

われわれには、かなり欲張った問題意識があるように思われるが、国民のための教育科学研究運動の発展のために、みのある成果をあげるべく最善の努力をつくしたいと思ふ。

△佐々木享▽